



日本酪農青年研究連盟 山下博委員長を偲んで



十勝協議会の役員の皆様を中心にご報告させて頂きましたが、日本連盟委員長であります山下博委員長(大樹町在住)が2020年3月27日(金)午後5時23分、くも膜下出血により享年53歳でご逝去されました。これから益々のご活躍が期待されていただけに、日本全国より哀痛の声が届いています。十勝協議会事務局としてお亡くなりになる前日に元気なお姿を拝見していただけに、悔やみきれません。今回は山下委員長の、これまで歴任された要職と共に会員の皆様と在りし日のお姿を偲びつつ、これまでの日々を振り返ります。

※山下さんの過去の特集記事は酪青研HPIにPDFで掲載されております(十勝のチカラ_第2号)

～酪青研全国大会経営発表でのお姿～

山下博さんは1991年(平成3年)に山下牧場に就農され、1992年(平成4年)にご結婚、2001年(平成13年)に経営移譲をされました。

2004年(平成16年)には第57回日本酪農研究会(秋田県大会)経営発表の部において黒澤賞(農林水産大臣賞)を受賞。『40頭で500t. ゆとり重視の家族経営を目指して』と題し、ゆとり重視の家族経営へのこだわりを發表され「家族の和がゆとりある経営を生む」を信条に、あえて規模拡大をせずに労働を集約化、家族がそれぞれの役割を持ち全員で納得ゆくまで議論し、自ら考え行動をされてこられました。



当時の牛舎の様子



2004年 ご家族と共に...

山下さんは発表当時「家族経営の良さをベースにより経済的・環境的に魅力ある酪農家を目指したい。また近い将来、搾乳に特化する酪農家を支援するため地域の核となる『哺育・育成センター構想』を実現し地域の共存共栄を実現したいと思う」と力強い発表をなされました。

その「夢」の実現に向けひたむきに努力され、ついに地域の核となる哺育センターやコントラクター事業を次々に立ち上げ、地域に貢献されてきました。

～数々の要職を歴任～

経営発表後は酪青研活動にも尽力され、2006年(平成18年)には大樹単研副会長に就任。

2010年(平成22年)には大樹単研会長、上部組織である南部十勝地方連副委員長も兼任され、2012年(平成24年)には十勝協議会会長となり十勝の

トップとして酪青研活動の活性化にご尽力されました。昨年(平成27年)には日本連盟副委員長に就任、2018年(平成30年)10月には北海道協議会会長、同年11月には日本連盟委員長に就任され、全国会員のリーダーとされました。酪青研のみならず、大樹町においても大樹町教育委員、大樹町酪農部会長、J-proコントラクトファーム代表取締役など様々な要職を務められ、地域にも・酪青研にも欠かすことのできない存在となっていました。



昨年の全国大会

～近年のご活躍と日常の横顔～



自慢の名機と共に

2005年(平成17年)、当時大樹町には存在しなかった哺育センターを一番に立ち上げ、事業開始時は家族のみでの運営でしたが、従業員を雇い分業化。センター立ち上げ後は、酪農のゼネラリストを目指して、作業を平準化し雇用環境を整えてこられました。昨年末には規模拡大を行い、哺育総頭数は1,000頭規模にまで拡大をされました。コントラ事業についても地域の酪農家の皆様からデントコーン播種を依頼され、大樹町内の約4割もの播種作業を請負っておられました。山下さんは大型機械が大好きで倉庫には最新の大型機械がズラリと並び自慢の名機を見せて頂きました。また牧場にお伺いすると奥様・娘様と3人で仲睦まじくお話しされている姿をよく拝見させていただいておりました。

愛妻家であった山下さんは奥様と海外旅行にも行かれ、旅行中の楽しいお話を聞かせて頂きました。その温かく、優しい笑顔にもうお会いすることが出来ないと思うと、残念でなりません。

残されたご家族のお気持ちを思うと胸がただただ痛みます。この場をお借りし、心から哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。どうか安らかに眠りください。本当にありがとうございました。

P.S 博さんと笑い合い美味しい日本酒を飲んだ事は一生忘れません(現地事務局:M.N&T.O)

酪農語録「開拓者たれ-いつの日かこの地は酪農のメッカたらん」言葉:エドウィン・ダン



奥様・娘様と...